

二度賢明にして信頼する高砂附近 町村民諸氏の公正なる御批判と御後援

賢明且敬信する町村民諸氏!!!
過日我等三菱の労働者の實情を訴へて、御批判と御同情を乞ひました。

ところが公明正大なる町村民諸氏が、我等の苦衷を御諒察下さつて深甚なる御同情に絶大なる御後援を賜りますことは、争議團會員の心の奥底に感謝の念と崇高の感を深く、刻み込まれました事を御厚禮申上げます。

此度會社から撤布致しました。
八月廿一日附で三菱製紙會社高砂工場よりの附近町村民各位に申上げます。こいふビラに對して

茲に、三度、公明正大なる御批判と熱烈なる御同情を訴へ

ます。
會社曰く當社は世間一般と同様に不景氣のため最近非常に生産過剰になりまして現に沖紙機九台ある内三台を休み六台のみ運轉して居た次第であります。三台の沖紙機を休みますと約百五十人は何も仕事がないのであります。三台から會社は儲ける爲めに工場を設立致し亦儲ける爲めには、**「この工場は擴張を致しました。利の爲め盲者はアクトコッロを知らざる會社は只一念に儲け様く生産高を多く致します。」**

其の工場初める時は又は擴張する度毎に、甘い文句を羅列して一定の職にある者をマッソセ社に引込んで、朝の早くから晩の遅くまで又晩から朝へと日を夜に換へて働かせマッソセ社に押しつけて、搾りに搾り抜いてウツト儲けて會社の資本は太り通してあります。工場の増築、改良は其の實例であります。儲けのある間は儲けを自分のポケットに入れて、不景氣の不景氣も口にせないので、儲けが自分かと思ふ充分に不景氣の時に少くも、少くも直ぐにその利益を握り、**「儲けを低くして儲けの率を保持せんとするのであります。」**と居ります。その好景氣の時に、自分の言つた事を忘れた顔をして居ります。會社の文句の「最近非常に生産過剰になりまして」などは事實彼等が儲けの爲めに競争したその尻を、弱く我等職工に拭はせるので、此様に何時も悪い事は皆引カテおぼせぬことは、實に困るものは労働者計りで、

然し會社のいふ生産過剰から来る三台の休轉は事實は生産過剰より生ずるものにあらずして、原料の一部なる「ノリ」は季節が熱くなること其効力は低下するのであります。爲めに、夏期は使用量が多くなるので採算上休轉する事が、儲けの上から言へば利益である爲めに行ふ一經營方針であるのであります。

それでありまして休轉より起る約百五十人の利益を生ずるのあたり前の事で、打算上より起る結果であります。彼等の言ふ思ひにきつての優遇のその要を押進めて見れば不要の時解雇となるので、然し、會社はそれが出来ず、然練工だからなので、それを何時もアッソセ社で減額すれば、冬の大儲けをする時に間に合はないから雇つて置くのであります。

會社は我々労働者か蛇の反對の生れ、夏は食はず飲まずで庭で暮らして冬は働いて呉れればとも思つて居るので、然し事實を見る時に、會社は夏雇つて置く事は、只金を捨てる様に言ひますが、工場其他の掃除も高い賃金の臨時人夫を雇入れてそのに、安い賃金の職工を使へば、これも両道をかけた會社の儲けの二方法と言はねばなりません。

然るに會社は實にウマイ文句でなほほど、賢明なる町村民諸氏を僞偽して居ます。

會社曰く、今回の労働者は本年六月頃就業者の一部を以て組織する工友會では教育や福利の基金を作る爲め各人給料三分集める。此の時各人三分の給料は多過ぎる。この議論が工友會の幹部は不得止人忌むきの十四、五の要求提出する事を内面的目的として異議をいふ者なために三分の臨時集金の件を撤めたものではないか。

會社より撤布したビラの初めに書いてある通り、我等の三分の給料を臨時集金した事の目的は、會社の事情や其他常識を作つて人間として、恥かしくない人格品性を作りたい爲めの教育を目的としたのであります。其上に總ての救済事業を起して充分なる相互扶助の精神に浴びたい爲めでありました。然るに、それは六月の集金の時から争議を起す爲め金の如く會社は思つたので、真らしくマッソセを流言して、批難攻撃を爲し、遂には壓迫に壓迫を加へて来たのが事實であります。されば彼等は自分の想像に等しい様であります。位の誤断を堂々ゴビラに迄書く様な奴であるのでありますから、總ては御推察を御願ひ致します。

私等は事を好んで起したものではありません。以上事實で御存じの様に辛棒に辛棒してこらへて来たのであります。斯くの如く、止むに止まれず罷業になつたのは無理なる會

社の壓迫の結果であります。

然し此事實を、會社には文筆の達者な學士様や學者様が御揃ひでありますから、如何にも最もらしく美麗な言葉で偽言と曲筆で欺むかんと居ります。

私達は信じて居ります。賢明にして公平なる町村民諸氏がかゝる虚構の言を信じられない事を。

會社曰く、會社はこれを罷り早速幹部。幹部は斯くの如き要求を會社に出して争議を起す様な事は絶対にない事を誓ひ。工友會ではその會報上で會社を攻撃したり、工場内の秩序を亂したり、極力善導する事に努めて来たのであります。全然關係なき社則違反者を懲罰を以て解職させた。この解職者復職問題と共に策定して居た條項を加へ此度の欺瞞を提出したものであります。

工友會の幹部が「争議を起す様な事は絶対にない事を誓ひ」とありますがその通りであります。我等労働者は正直なものであります。その誓ひの履行を完全に爲すべく努力の限りを盡すに、會社は無理強ひに罷業を起したのであります。亦「工友會の會報上で會社を攻撃したり、工場内の秩序を亂したり」と言つて居りますが、

今になつて思へば、會社は罷業を起さず根柢で、無茶苦茶な事計りをやつて来るから、少し緩和してもよらふべく書いたのであります。決して攻撃ではないのです。もしそれが攻撃であつても、會社はそれを幾分なり共反者して改めて呉れれば好いのであります。そして獨特好く職工に働かせて呉れれば工場の能率も増進する事になります。斯く考へれば攻撃などと思つて居らずして「秩序を亂す」とは言へない筈であります。むしろ職工は氣持よく働かせる方が秩序を亂す事になる。亦「極力善導に努めて来た」といふ口の下で「社則違反者として解職させました」といつて居るが何等理由なき者を退職を迫り、嫌なら解雇するぞと脅迫したのであります。

故に職工一同は失業問題の喧しき今日益々不安の念にかられ此先如何になるかと心配し又友に對する熱情から復職を欺願したのであります。然るに何事でしょう二名の解雇者で不安がつて居るのに又々二十八名といふ多数を首斬つて終つたといふ。この事實は會社が善導するにあらずして悪導したのであります。まして秩序の紊亂は會社によつてなされたのであります。

會社曰く、今度の労働者は六月から採知して居ります。採知するより外致し方ないであります。止むを得ず採知した。工友會は此要求を貫徹せんとし、會社を決定する事が切に。幹部を懲罰した。右の如き偽言。何卒會社、苦衷を。附記。工友會。附付。日給九十五。事實は、採知する人。三十五名と云つて居ります。

欺瞞書を六月から採知して考究して希望を入れて、本然に防いだのであります。とは實に虚構も甚だし、いふのであります。亦、今回の欺瞞に對しては全部拒絶するより外致し方ないので、止むを得ず断つたのであります。と言つて居ります。

附記の會社の聲明の如く日給賃金。三十五名も呉れたなら、こんな問題も起りませぬ。又私達は何人にも言ひませぬ。只の九十名位で其他は不確實な収入が少し位ある計りであります。其不確實な収入を確實にしてもらひた。どうして暮らせませう、これに對しても最少し何と云ふか、度々御願ひ致したのであります。

それを故らに、罷業執行中の會社の誤認で我等と會社との誓ひを無視し、我等の誠意ある行動を蹂躪し、職意なき見解に無理からずを取らせ、而して職工解雇、人員淘汰の機会を捉へんとしたのが、會社の本當の腹の中であり、斯かる行為が日本の代表的資本家としての爲すべき事では、斯かる事を腹面もなく堂々と印刷撤布して恥ない人が三菱製紙の高砂工場長で御座います。こんな狂人染みたる者に死活の鍵を握られては全くたまりませぬ。

一私情、一感情で人心を恐怖と不安の中に置く事は、正義人道の立場から言つても捨て置かれませぬ。實にこの様な事を行つてもらふ事は思想上から云つても悪化を來します。現在政府は學國一致で思想の善導を叫んで居りますが、人間として經濟上の行詰りより思想上に悪化を來す事が一番多いのであります。

賢明にして公明正大なる高砂附近町村民諸氏の御批判を仰ぎ暴逆極まれる公敵三菱製紙の猛省を促すが可く絶大なる御後援を待ち居ります。

三菱製紙工友會爭議團